

本ソフトウェアは技術的制限手段を違法に回避するものではありません。

このソフトウェアは、技術的制限手段が施された著作物のリッピング等、改正不正競争防止法で定められた違法行為に抵触するものではありません。

AsCpuTempGraphe.exe (agency SAKAE CPU温度グラフ 以下、アプリ) はフリーウェア(無料)です。

著作権は放棄していません。 agency SAKAE が著作権を保有しています。

使用したことによって生じた不具合には一切責任を負いません。 **自己責任で使用してください。**

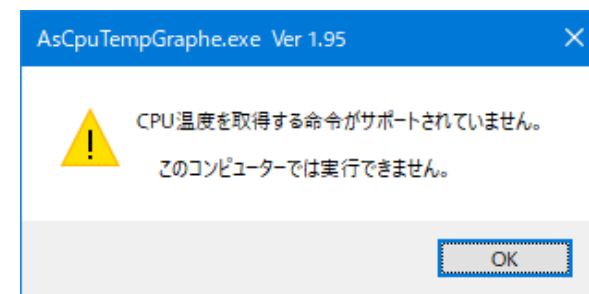
AsCpuTempGraphe.exe は**管理者として実行**してください。

パソコンによって使えない(エラーが表示される、いつも同じ温度になる)ことがあります。

画面を縮小・拡大していると**キャプチャー位置がずれる**ことがあります。

マルチCPUのコア別の温度測定には対応していません。

重要



CPUが対応していないと実行できません。

このマニュアルを見て、他の人に聞くことなく自分一人で使いこなすことが出来る人だけが使ってください。

私が使っていておかしいところは気づいたら直していますが、隠れているバグもあると思います。

バグは直すようにしたいと思っていますが、技量不足で直せないのもあるかと思っています。 ご了承ください。

動作不具合は件名を **AsCpuTempGraphe Ver 2.36.07** にして次のメールアドレスに送ってください。

agency.sakae@gmail.com

私の動作環境でも不具合が再現できて、修正できる内容であれば改訂版に差し替えます。

アプリの画像とマニュアルのフォーム画像が異なる場合があります。 書かれている内容も最新版アプリと異なることがあります。

元は CpuTempGraphe.exe だったのを 一般的すぎるので先頭に As (agency SAKAE)を付けました。

そのためマニュアルやフォーム左上のタイトルに As が付いていないのが多数あります。

マニュアルで使っている **¥** (円マーク)がフォントによって \ (バックスラッシュ)になっていることがあります。

インストーラーは有りません。 AsCpuTempGraphe.exe を直接(またはショートカットで)起動してください。

インストールをしていないのでアンインストールも不要です。 アプリをダウンロードしたフォルダー・ファイルを削除するだけです。

『コントロールパネル → プログラムと機能 → プログラムのアンインストールまたは変更』の一覧にも載りません。

レジストリーは使っていませんが My.Setting という命令は使っています。

環境変数 %AppData% の場所に agency_SAKAE のフォルダーが作られて、その中にサブフォルダーが作られる場合があります。

【例】 C:\Users\sakae\AppData\Roaming\agency_SAKAE\AsCpuTempGraphe.exe_Url_ [i45ix4004uvcwn2utlgeip4taw5lihkc](#)

この部分は変わります。

動作確認は Windows 10 Pro で行っていますが環境によっては動かないこともあると思います。

Windows 10 Home / 11 では動作確認をしていません。

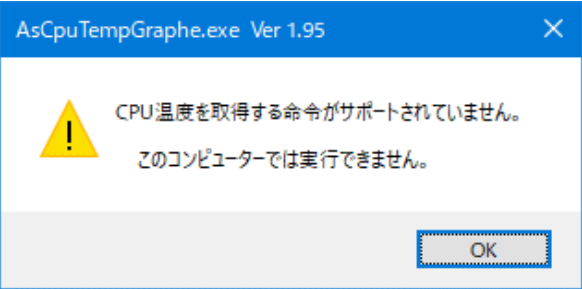
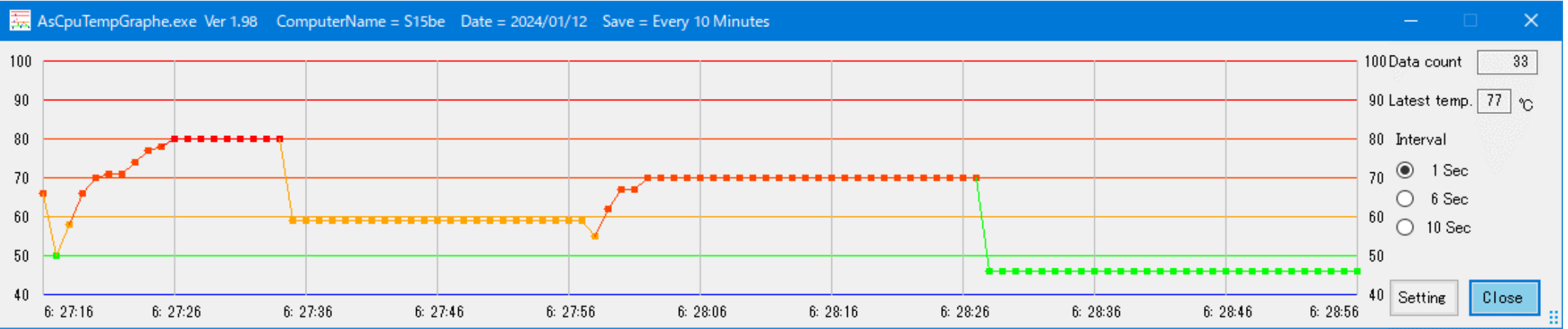
アプリは Microsoft Visual Studio 2019 , 2022 の Visual Basic で作成しました。

フォーム、ボタンなど全て英語になってます。 日本語にしたかったのですが 2バイト文字 では文字化けをすることがあるので英語(1バイト文字)にしました。

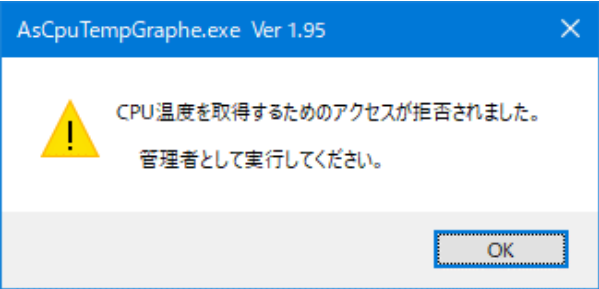
日本語から英語にはインターネットの翻訳サイトを使いました。 おかしな英語になっているかも知れませんがご勘弁ください。

このアプリで言う コンピューター名 は 正確には ホスト名 (Dns.GetHostName) です。

AsCpuTempGraphe.exe (agency SAKAE CPU温度グラフ 以下、アプリ) は下のような画像が表示・保存できます。アプリは**管理者として実行**してください。



CPUが対応していないと実行できません。



管理者として実行してください。

エラーにはならないけど温度を取得できない (いつも同じ温度なる) こともあります。

初期値は次の通りです。

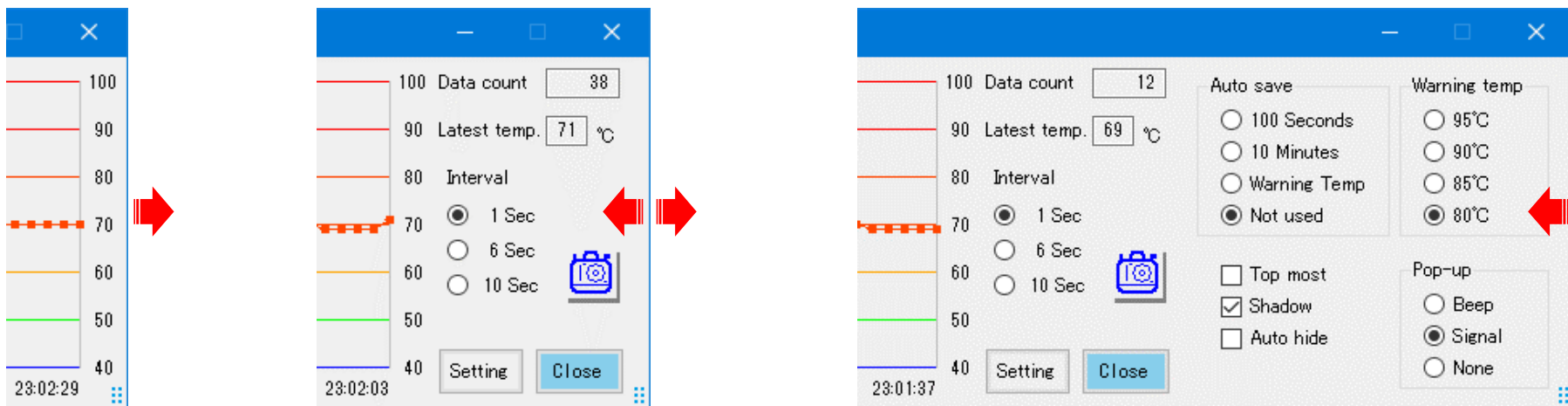
フォーム位置	原点から右 300ドット、下 300ドット	影の除去	しない・する	ポップアップ時の音	無し・ビープ音・信号音
フォームサイズ	幅 1, 345ドット、高さ 260ドット	除去のドット数	7・任意	信号音の周波数	523 Hz・
常時最前面表示	しない・する	警告温度	80℃・85℃・	信号音の長さ	300 mSec・任意
画面更新間隔	6秒・1秒・10秒		90℃・95℃・		
自動保存	しない・100秒毎・10分毎・警告温度以上		41℃～101℃		
保存後非表示	しない・する				

キャプチャーした画像ファイルは .png 形式で デスクトップ に次の名前で保存されます。 /ImageSaveFolder= で好きなフォルダーに変更できます。

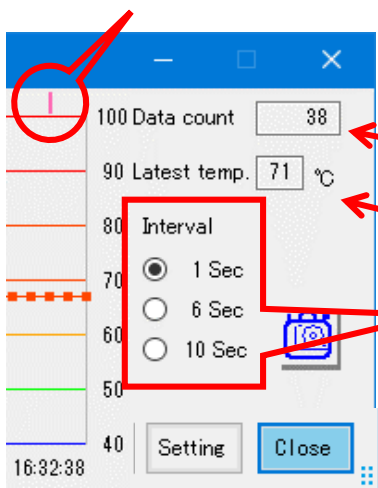
AsCpuTempGraphe.exe S15be 20210715 211218.png

アプリ名 コンピュータ名 日付 時刻 .拡張子

フォームの右端をつまんで左右に動かすと横幅が3段階に変えられます。



グラフ上の縦線はタイミングマーカーです。❌ 自動保存の時は左端の位置になればキャプチャーします。



表示できるのは 101ポイントだけで、古いデータから左へスクロールアウトします。止めるまで延々と実行します。

Data count は 86,400 になると 0 にリセットされます。($86,400 = 60\text{秒} \times 60\text{分} \times 24\text{時間}$)

測定した最新のCPU温度です。39℃ 以下は 40℃ として、101℃ 以上は 100℃ として処理してます。

Interval (インターバル・次の描画までの時間)を選んでください。ただし自動保存の時は選択できません。

❌ グラフ上のタイミングマーカーの色が変わります。ただし、画像を指定している場合は関係ありません。

赤色 | 100秒毎、10分毎の自動保存。

橙色 | /AutoSaveWarning
警告温度の監視中。

緑色 | /AutoSaveWarning
5分後、10分後の自動保存待ち。

黒色 | 自動保存無し

カメラボタンはクリックすれば
いつでもキャプチャーできます。

100 Seconds	100秒毎にフォームを自動保存します。
10 Minutes	10分毎にフォームを自動保存します。
Warning Temp	警告温度以上でフォームを自動保存します。
Not used	自動保存はしません。

ReStart をクリックすると
設定が有効になります。

Auto save

- ☐ 100 Seconds
- ☐ 10 Minutes
- ☒ Warning Temp
- ☐ Not used

Warning temp

- ☐ 95℃
- ☐ 90℃
- ☐ 85℃
- ☒ 80℃

Pop-up

- ☐ Beep
- ☒ Signal
- ☐ None

Beep ビープ音

Signal 信号音

None 無し

Warning temp

- ☒ 92℃
- ☐ 90℃
- ☐ 85℃
- ☐ 80℃

使用できる起動パラメータについて説明します。

/FormPositionReset , /F フォームの表示位置をリセットします。 原点から 右 300ドット、下 300ドットの位置をフォーム左上にします。

/Help , /H , /? 簡易説明を表示します。

以下の設定は記憶しますので、次回変更するまで有効です。 ただし、バージョンアップやフォルダーが変わるとクリアされることがあります。

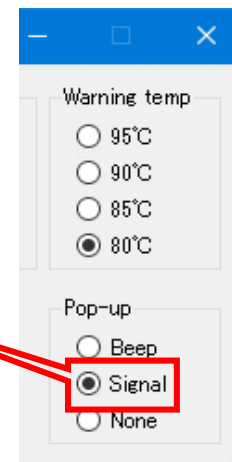
/WarningTemp=**nm** 警告温度を 41 ～ 101 の範囲で指定できます。 既定値は 80 °Cです。
【例】/WarningTemp=**92** 101°Cは警告を表示したくないときに指定してください。

/ImageSaveFolder= フォームの保存場所を指定します。 既定値はデスクトップです。
【例】/ImageSaveFolder=**D:\S15be_sakae_AuxFolder\LogFileFolder**
【例】/ImageSaveFolder= 既定値(デスクトップ)に戻すとき。

/SignalHz= 信号音の周波数です。 37 Hz から 32,767 Hz の範囲です。
【例】/SignalHz=**523** 低すぎても、高すぎても耳には聴こえません。

/SignalTime= 信号音を鳴らす時間を mSec 単位で指定します。
【例】/SignalTime=**300**

/ShadowDot= 『ウィンドウの枠に影を付ける』が有効の場合はフォームの周囲もキャプチャーされます。
【例】ShadowDot=**10** 既定値は 7ドットですが、変えたい場合に指定してください。



Setting のフォーム画面。

アプリの設定は フォームのチェックボックス・ラジオボタン・起動パラメータ で行います。
Setting ボタンで現在の設定値を見ることができます。
修正もできますが、入力値のチェックは行っていないのでアプリが異常終了することがあります。

起動パラメータに /DebugOut**0** を指定すると詳細な内容がデスクトップに出力されます。

AsCpuTempGraphe.exe Ver 2.32 [Setting 0.68]

その他

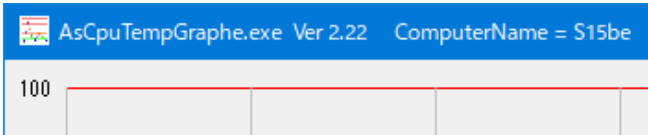
AutoHide	False
AutoSave	AsWarning
DelayTime	-1
FormMain_Height	260
FormMain_Left	-1662
FormMain_Top	540
FormMain_Width	1445
FormSetting_Height	550
FormSetting_Left	-1356
FormSetting_MaximizeBox	False
FormSetting_Top	186
FormSetting_Width	450
ImageSaveFolder	
MeasurementInterval	6
PopupSound	Signal
ShadowDot	7
ShadowFlag	True
SignalHz	523
SignalTime	300
TopMost	False
WarningTemp	80

AutoHide

Save Return End

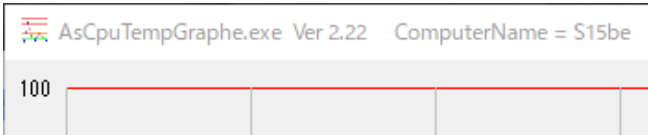
ポップアップでフォームが表示されてタイトルバーが点滅します。 そのタイミングによって非アクティブの状態でキャプチャーされることがあります。

アクティブ



色の設定によっては違う色だったり、色が無い場合があります。

非アクティブ



/DelayTime=

できるだけアクティブの色になるように遅延時間を調査・設定するためのパラメータです。
必ずアクティブになる訳ではありません。 アクティブになる可能性が高くなるだけです。
非アクティブの状態(色)でも気にしない場合は不要です。

【例】/DelayTime=-1

時刻の 分 の十位によって 0 ～ 500mSec の範囲で遅延を変えます。
例えば、毎時 30分のときは 300 mSec 、50分のときは 500 mSec の遅延時間です。
キャプチャーした画像を見て、アクティブになる確率が高いのを /DelayTime=??? で設定してください。

【例】/DelayTime=300

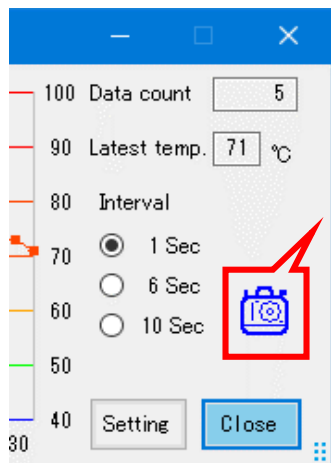
ポップアップのとき Me.Show() のあと遅延を 300 mSec してから Me.Activate() を実行します。
範囲の制限はありませんが 100 ～ 500 くらいで試してください。
ちなみに、私のパソコンでは 400 mSec が一番アクティブになる確率が高いので設定してます。

【例】/DelayTime=

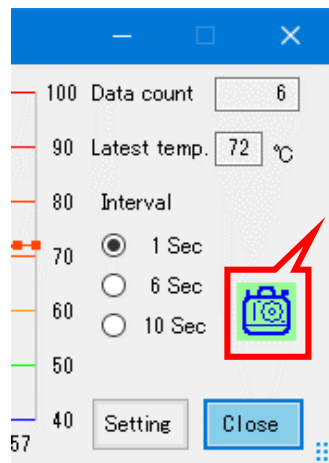
遅延をしません。 /DelayTime=0 も同じです。

キャプチャー (カメラ) ボタンは起動パラメータの指定により 6 種類あります。このボタンはキャプチャー時には消えます。

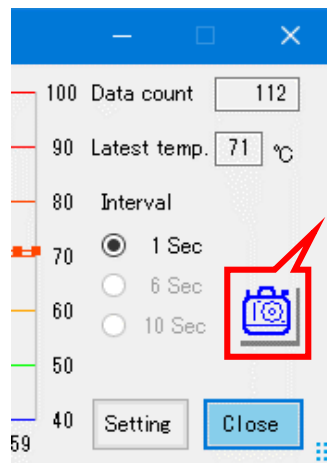
標準 (未指定)。



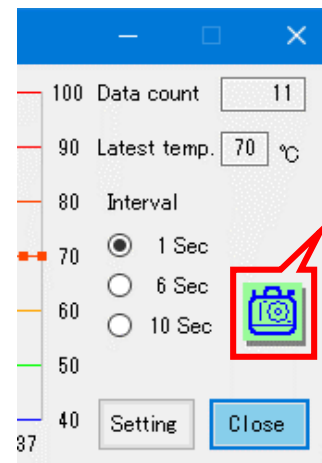
100秒毎／10分毎の
自動保存 を 指定時。



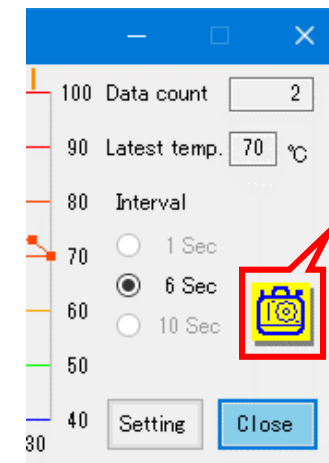
Shadow チェック時。



100秒毎／10分毎の
自動保存 と
Shadow チェック時。

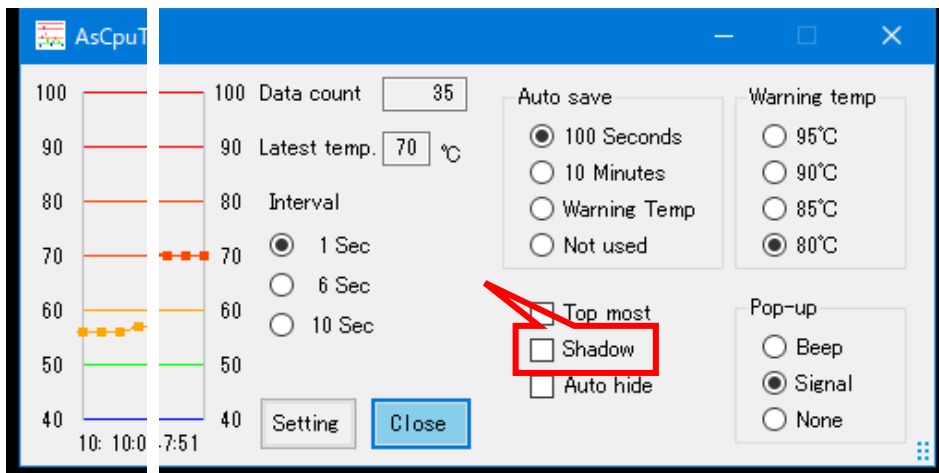


警告温度自動保存 と
Shadow チェック時。

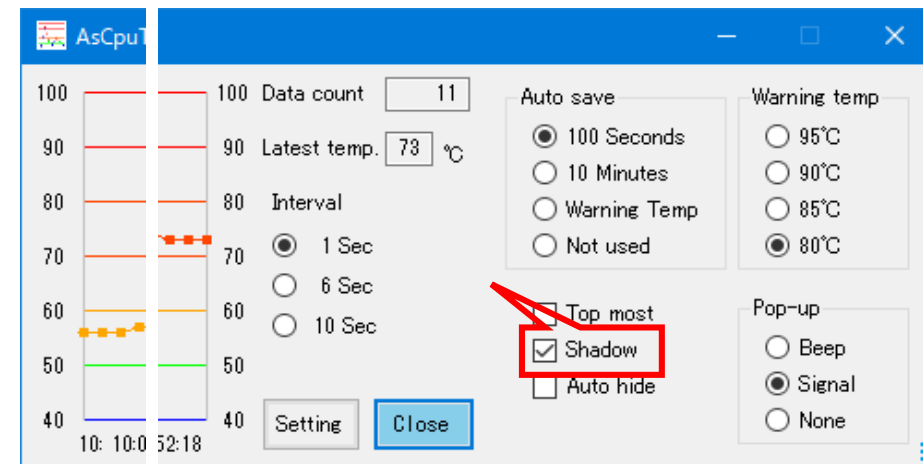


Shadow 未チェックもあります。

『ウィンドウの枠に影を付ける』が有効の場合はフォームの周囲もキャプチャーされます。

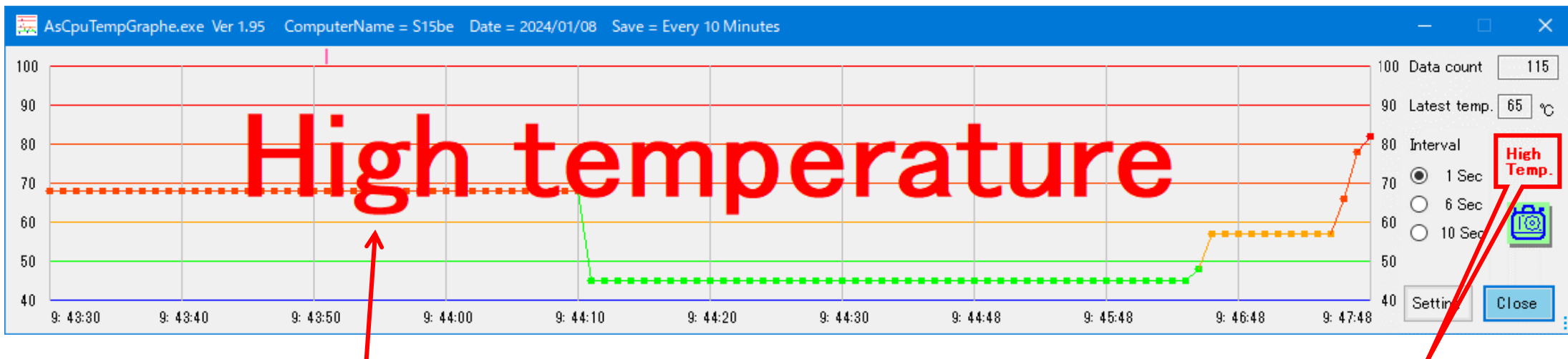


Shadow をチェックすると影を除去してキャプチャーをします。



除去するのは 左・下・右 を各 7ドットが既定値です。

警告温度になるとフォームが最前面に表示されます。 Signal または Beep がチェックしてあると 2回鳴ります。



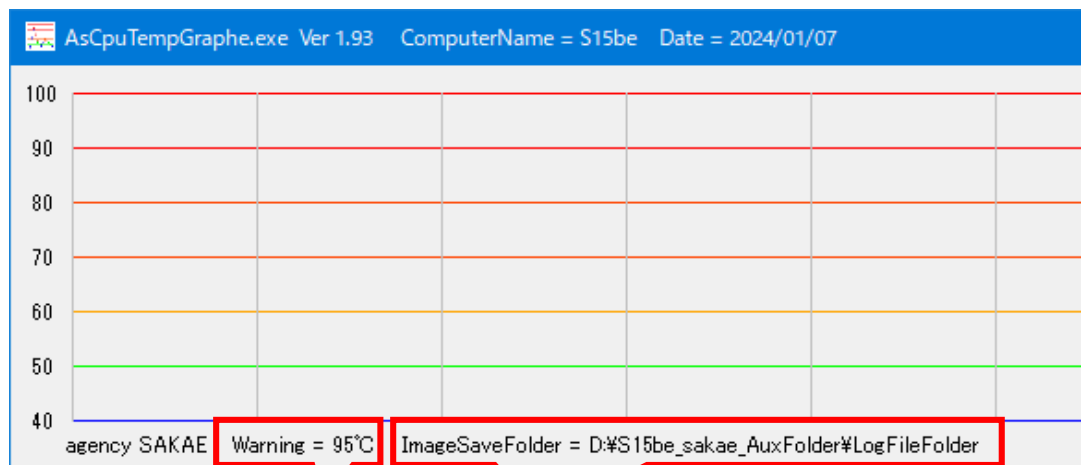
100秒毎、10分毎の自動保存
警告温度以上で自動保存

次の描画更新まで表示されます。

//

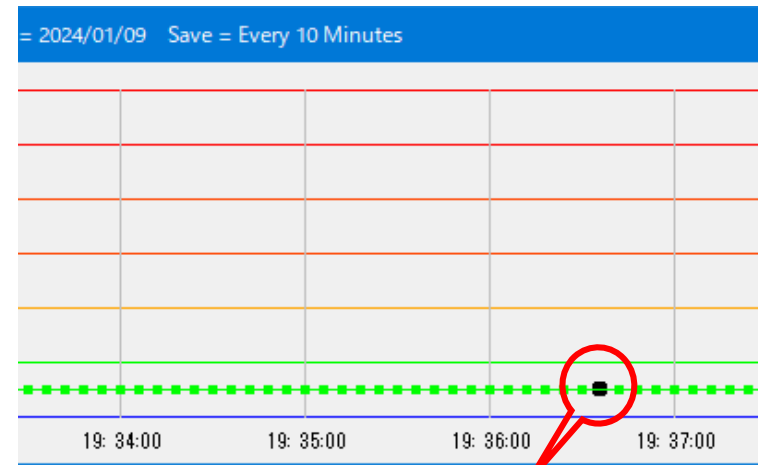
以降は 10分以内は再表示されません。
警告最高温度 を超えるたびに表示されます。

これは警告温度以上のときは常時表示されます。



起動直後のフォームに

警告温度が表示されます。 フォームの保存場所が表示されます。



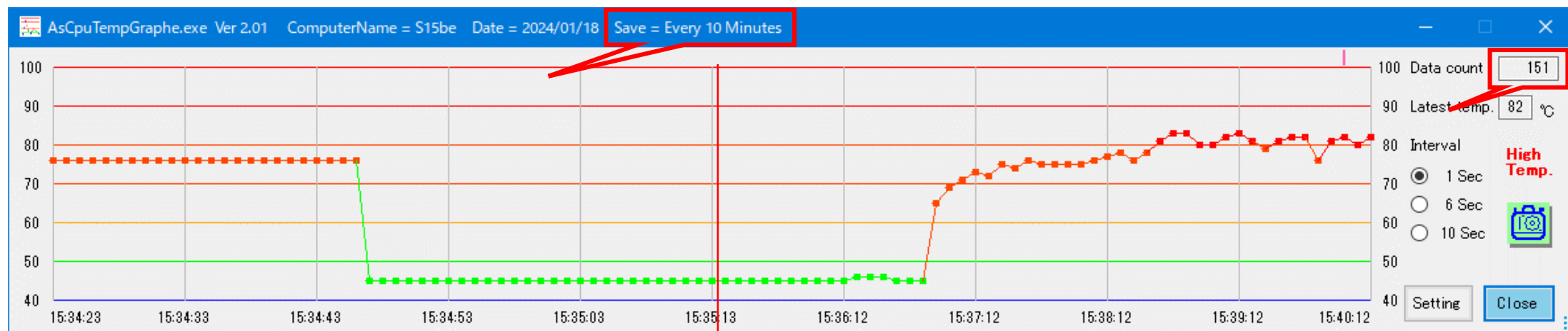
同じ温度データが続くと 100個毎に ● (黒丸) になります。

保存のタイミングについて。

自動保存(100秒毎 または 10分毎)を指定したときは、どちらも最初の 101 ポイントまでは 1秒毎で描画が進みます。

その後は 自動保存100秒毎 のときはそのまま 1秒毎で描画が進み、保存は 100秒毎の 0:00 , 1:40 , 3:20 , 5:00 , 6:40 , 8:20 に実行されます。
2回目の保存は 100秒より短くなりますが、3回目以降は 100秒毎になります。

自動保存10分毎 のときは 0 , 6 , 12 , 18 , 24 , 30 , 36 , 42 , 48 , 54 の 6秒毎で描画が進み、保存は 10分毎の 0:00 に実行されます。
2回目の保存は 10分より短くなりますが、3回目以降は 10分毎になります。



ここまでは 1秒毎 → ← ここからは 6秒毎

警告温度以上での自動保存について。 警告温度以上になると、その時点と 5分後、10分後の画像を保存をします。

例えば警告温度を 80℃に設定していると...

1. 80℃以上になると 画像保存(グラフの右端の位置)。
その時の温度を 警告最高温度 として記憶。
2. 5分以内に 警告最高温度 を超える温度なら 1. から繰り返し。
3. その 5分後(グラフの中央の位置)に保存。
警告最高温度 をクリア。
4. 10分後(グラフの左端の位置)にも保存。
5分以降に 警告最高温度 を検出すると、この 10分後の保存はキャンセルされます。

の動作をします。

警告最高温度 を検出・更新されるたびにポップアップ音が鳴ります。

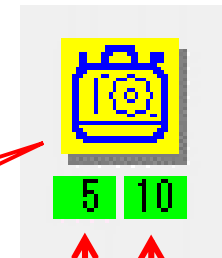
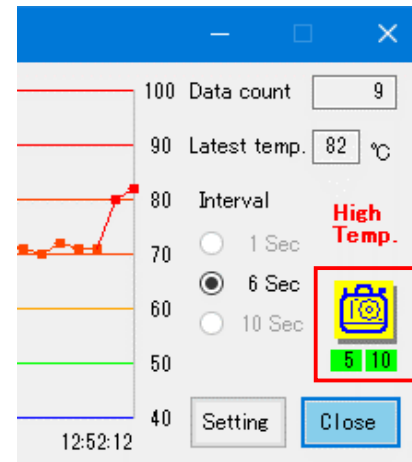
この 高温時保存 のときは...

100秒毎、10分毎の自動保存は無効。

更新間隔は 6秒毎。

になります。

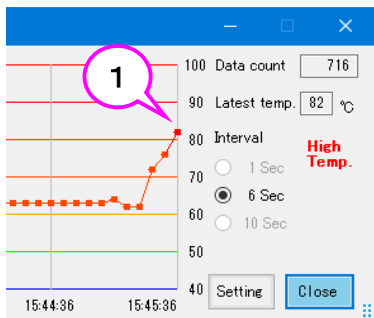
次ページに 警告温度以上での自動保存 をしたグラフがあります。



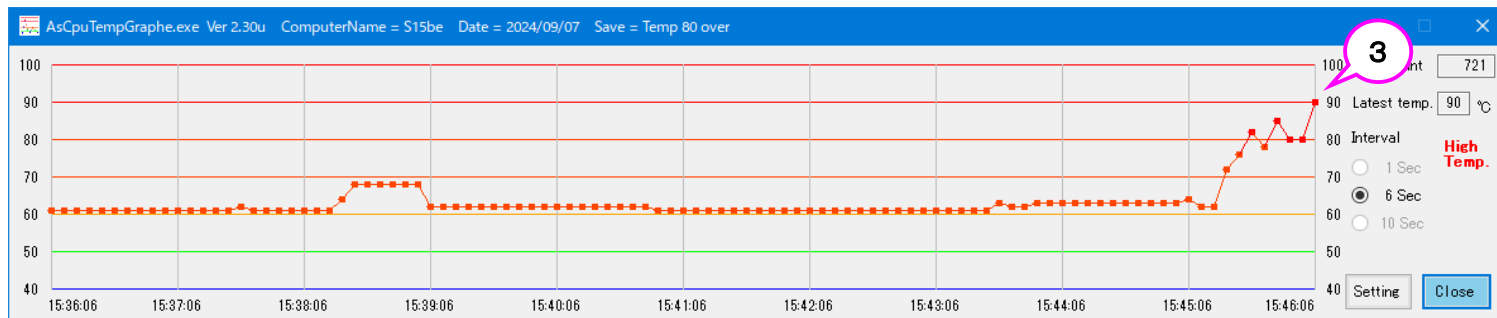
10分後のキャプチャー待機中。
5分後のキャプチャー待機中。

警告温度以上での自動保存についての実例。(80℃の場合)

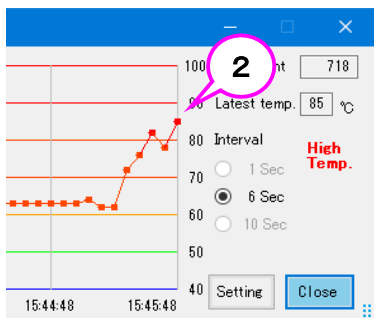
1. 82℃なのでキャプチャー



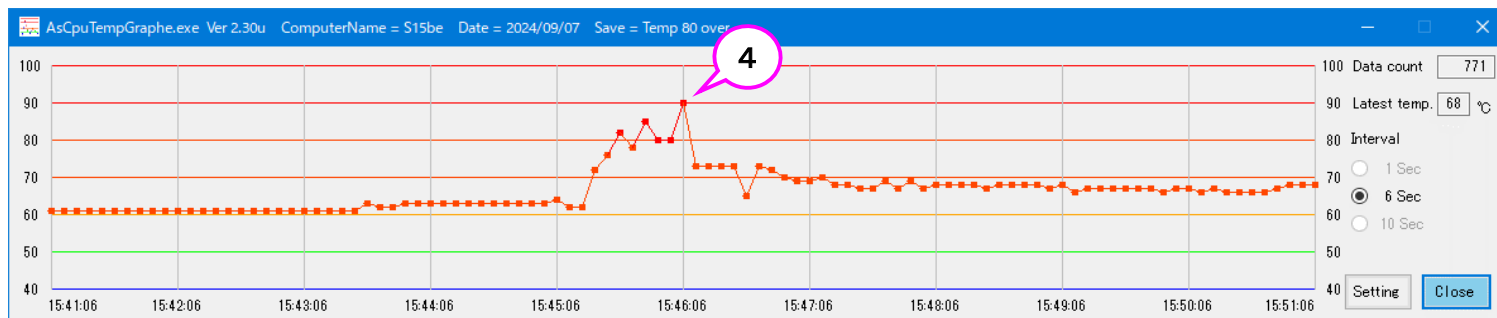
3. さらに 18秒後に 90℃なのでキャプチャー



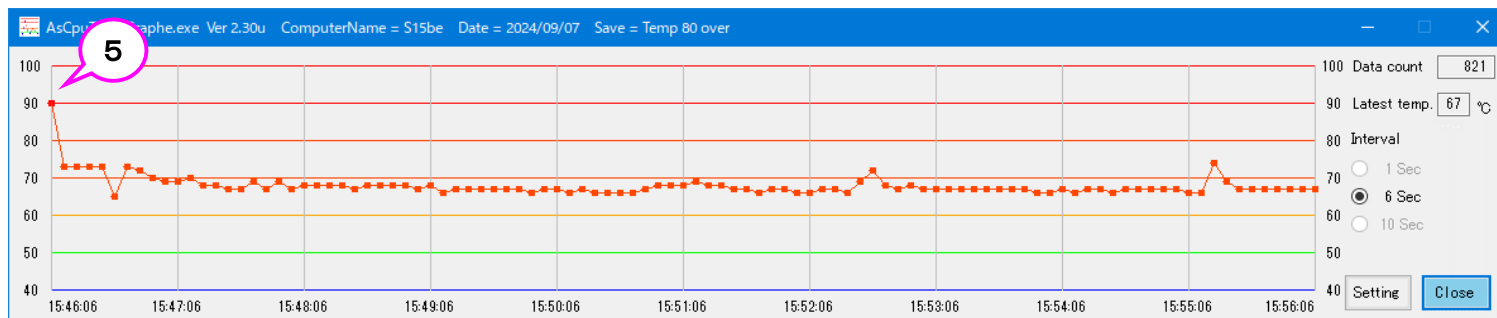
2. 12秒後に 85℃なのでキャプチャー



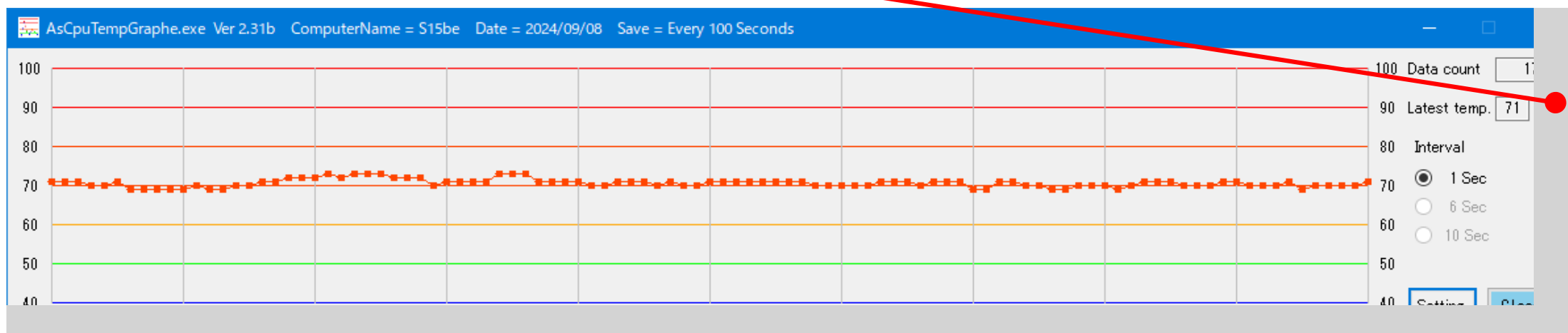
4. その後 5分間は 90℃を超えないのでキャプチャー



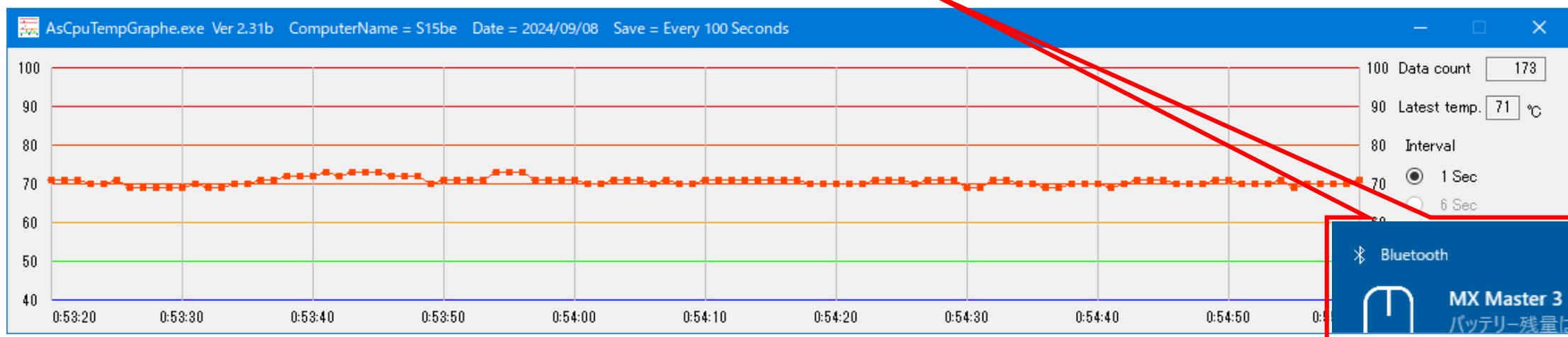
5. さらに 5分後にキャプチャー。



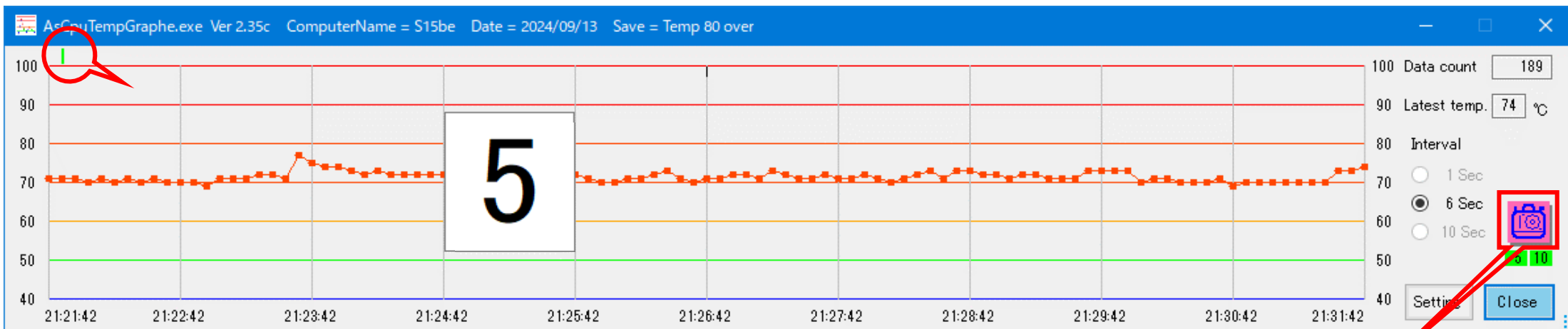
キャプチャーしたときにフォームが画面からはみ出していると、その部分は無地になります。



最前面に表示している時に、新たに優先度の高いフォーム、メッセージ、画像などが表示される場合があります。



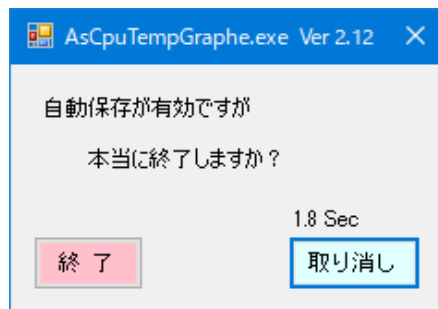
自動保存を指定したときはキャプチャーの 5秒前にフォームが最前面に表示され、カウントダウンが始まります。



このとき、フォーカスも移りますので、他のアプリケーションで操作中のキー入力などが一時的に出来なくなります。
キャプチャーの時はフォーム上のタイミングマーカとカメラボタンを非表示にしてからキャプチャーします。

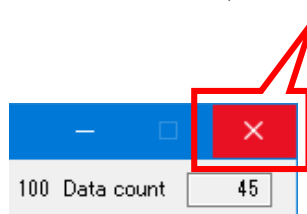
カメラボタンの背景色も ホットピンク になります。

自動保存の時に Close ボタンをクリックしたときは、確認のために次のダイアログが表示されます。

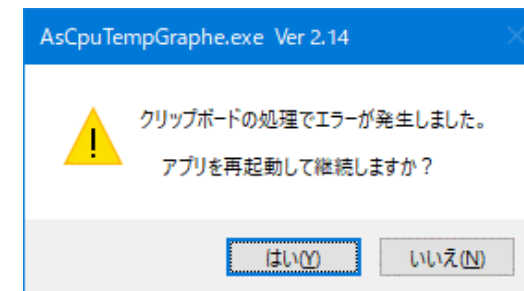


本当に終了する場合は 終了 をクリックしてください。
何もしなければ 3秒で元に戻ります。

右上の ✕ をクリックしたときは、すぐに終了します。

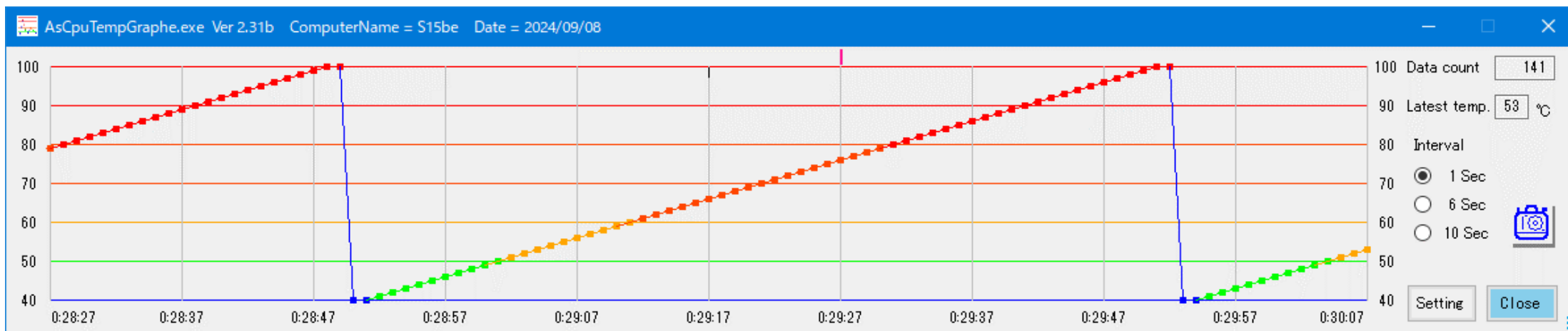


次のエラーが表示されることがあります。



はい をクリックしてください。
いいえ をクリックしても 多分 回復しません。

温度によって描画される丸印・線の色が変わります。 ↓ 起動パラメータ /IconTest の実行例。



アプリの保存されているフォルダーに AsCpuTempGraphe_IconImage のサブフォルダーが有って、その中に AsCpuTempGraphe.ico と TempValue_nn.ico が見つければ、そのアイコンをタスクトレイに表示します。（nn は 40 ～ 100 ）アイコンファイルが見つからないときは既定のアイコンになります。



アイコンファイルが見つければ次のようになります。（実際は縮小されるので見づらいです。）



40℃以下



41 ～ 50℃



51 ～ 60℃



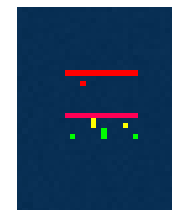
61 ～ 80℃



81 ～ 99℃



100℃以上



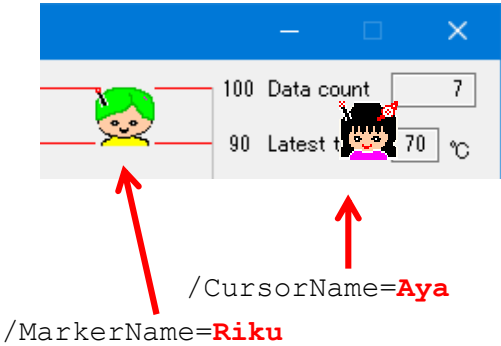
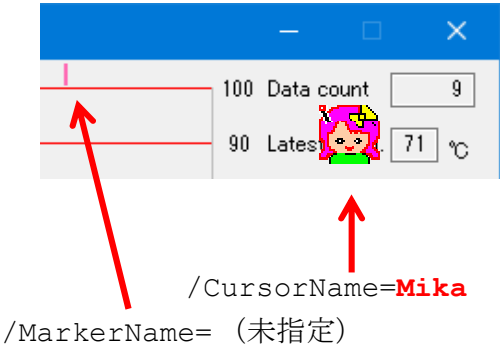
このアイコンのときはアプリの入っているサブフォルダー・アイコンが無いからです。

ファイル名さえ合っていればアイコンの内容は自由に変更できます。

遊び・動作確認用 の起動パラメータ。パラメータは記憶されません。大文字・小文字は正確に入力してください。

/CursorName=**xxxx** アプリのフォーム上でのカーソル指定。
xxxx = **Aya** , **Mika** , **Riku**

/MarkerName=**yyyy** タイミングマーカの画像指定。
yyyy = **Aya** , **Mika** , **Riku**



/LogOut (デバッグ中に使用)

/LogDebugOut (デバッグ中に使用)

/DebugOut**n** 動作確認用にアプリの環境や設定値、処理値、処理内容などをデスクトップに出力。
出力内容はバージョンによって変わります。

n = **0** , **1** , **2** , **8** , **9**

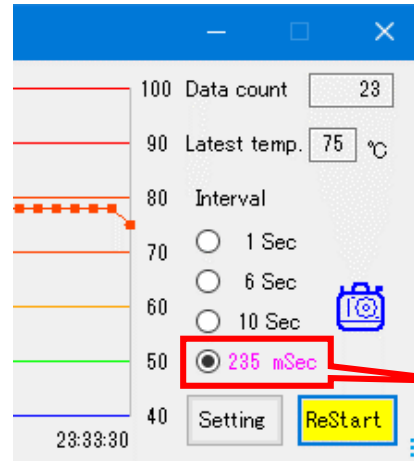
- /DebugOut**0** 実行環境・設定値のログ。
- /DebugOut**1** 1秒 のインターバル補正值のログ。
- /DebugOut**2** 警告温度以上のログ。
- /DebugOut**3** タイトルバー の日付更新のログ。
- /DebugOut**4** ButtonClose の処理内容のログ。
- /DebugOut**5** ImageSave , PopUpSound の処理内容のログ。
- /DebugOut**6** PopupSoundRinging の処理内容のログ。
- /DebugOut**7** LabelCaptureMark.Left の処理内容のログ。
- /DebugOut**8** Popup , Save , Sound の省略ログ。
- /DebugOut**9** 未使用

/DebugInterval=nnn

更新インターバル。

nnn = 100 ~ 500 くらい。

自動保存 は無効になります。

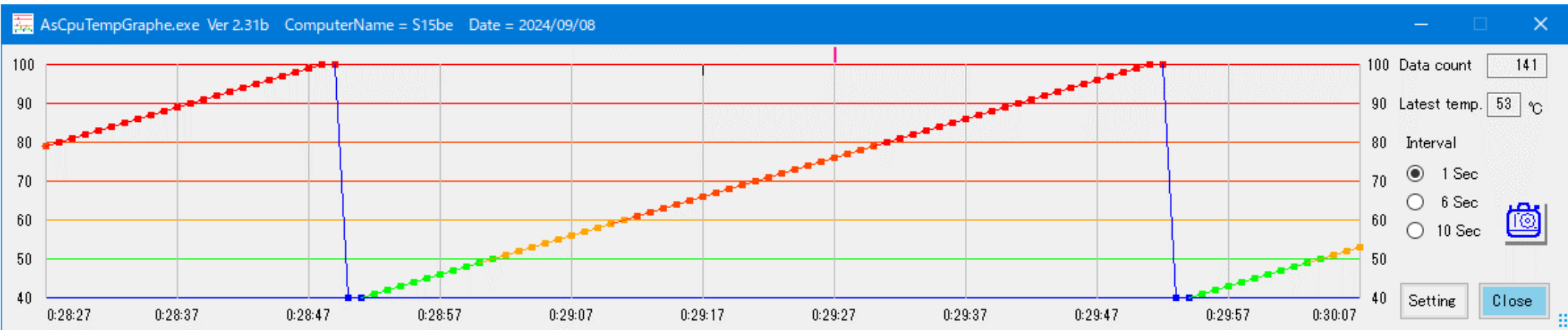


/DebugInterval=200 を指定しても
処理時間を含めた実際の処理時間が表示されます。

/IconTest

温度を 39 ~ 101 °C に変化したグラフを描画します。

グラフの色確認と温度アイコンの確認をするときに指定してください。



温度測定には次の命令を使っています。 インターネットで検索すると多数ありましたので、もっともらしい温度を取得できたのを使いました。

```
Dim searcher As New ManagementObjectSearcher("root\WMI", "SELECT * FROM MSAcpi_ThermalZoneTemperature")
For Each queryObj As ManagementObject In searcher.Get()
    Dim temp As Double = CDb1(queryObj("CurrentTemperature"))
    temp = (temp - 2732) / 10.0
```

命令の内容は理解できてません。動いたから使わせてもらっています。

また、次のようなコメントも記載されています。

CPU側がこの機能に対応していないとダメ！ WMI(Windows Management Instrumentation)が停止されたらダメ！

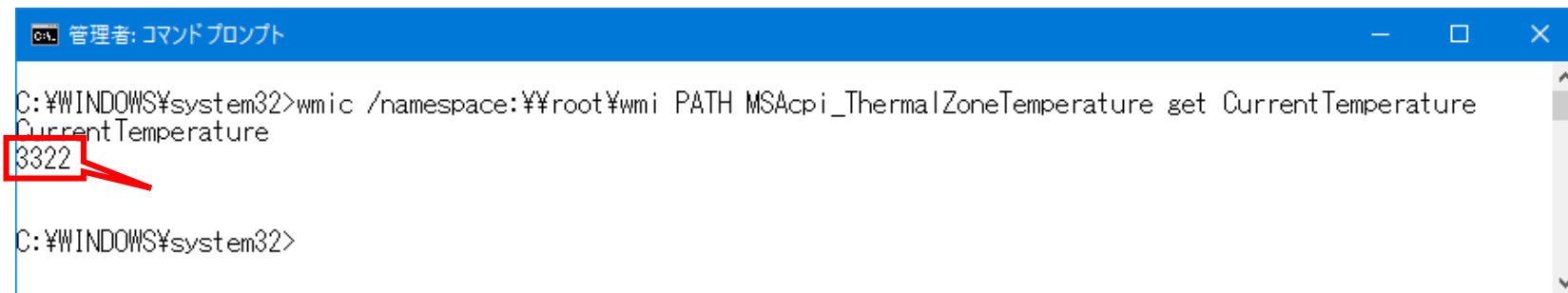
私のパソコンでは使えていますが、たまに 温度が一定のまま変化しないことがあります。

再起動したり、しばらくすると正常に戻ることもあります。

このアプリが使えるかどうかは、管理者としてコマンドプロンプトで次の命令を実行してください。

```
wmic /namespace:\\root\wmi PATH MSAcpi_ThermalZoneTemperature get CurrentTemperature
```

4桁の数値が表示されたらこのアプリも使えると思います。 ただし、毎回同じ数値の場合は、横一線のつまらないグラフになります。



関連ファイル

AsCpuTempGraphe Ver x.xx.yy	フォルダー 名前は何でも良い。
AsCpuTempGraphe.exe	実行ファイル このファイルのサブフォルダーに AsCpuTempGraphe_IconImage が必要。
AsCpuTempGraphe_Manual.pd	操作説明書 (このファイル)
AsCpuTempGraphe_IconImage	フォルダー 必ずこの名前。
AsCpuTempGraphe.ico	温度のアイコンファイルの有無を確認するためのファイル。 <div></div>
TempValue_40.ico	タスクトレイ用アイコン 40℃用 <div></div>
TempValue_**.ico ** = 41 ~ 99	タスクトレイ用アイコン 41℃ ~ 99℃用 <div><div><div></div><div>~</div><div></div><div></div><div>~</div><div></div></div><div><div></div><div>~</div><div></div><div></div><div>~</div><div></div></div></div>
TempValue_100.ico	タスクトレイ用アイコン 100℃用 <div></div>

更新履歴(主な項目)

作成開始	Ver 0.00	2021-06-20	Sun		
初回掲載	Ver 2.01	2024-01-14	Sun		
	Ver 2.06	2024-03-07	Thu	Show , Active の時間差 を追加。	新規。
	Ver 2.08	2024-03-08	Fri	クリップボードエラー出力 を追加。	新規。
	Ver 2.12	2024-03-09	Sat	FormWait を追加。	新規。
第2回掲載	Ver 2.22	2024-04-12	Fri	DebugInterval を追加。	新規。
第3回掲載	Ver 2.27	2024-09-01	Sun	FormSetting を追加。	新規。
	Ver 2.32	2024-09-08	Sun	Close ボタンで閉じられない のバグフィックス。	修正。
	//	//		日付が変わったときのタイトルバー の更新。	修正。
	//	//		/BeepSound (現 PopupSound)の設定 のバグフィックス。	修正。
	//	//		動作確認用起動パラメータ の 大文字・小文字 を厳密に比較。	修正。
	//	//		起動パラメータ /ImageSaveFolder の大文字・小文字を同一視。	修正。
	//	//		警告温度自動保存 を追加。	新規。
	//	//		フォームのデザインを大幅見直し。	修正。
最新版	Ver 2.36	2024-09-15	Sun	警告温度自動保存 のタイミング表示を追加。 (必要以上に保存・ポップアップがされることがあります。 現在調査中です。)	修正。

―― 以上 ――

